

会員並びにご家族様

大阪市・浪速区

2025年5月吉日

大阪の様々な顔を感じられる神祕な散歩

～動物園前駅から芦原橋駅へ時代を駆ける歴史散歩～

初夏を迎え、少しずつ暖かくなっておりますが、時折、梅雨を感じさせる雨が降ったりもしています中、皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今回の『散歩de史跡』のコースは、大阪Metro動物園前からJR環状線芦原橋駅までの、江戸時代から現代までの大阪の歩みが感じられる道のり(約4.5km)を、初夏の空気を吸いながら歩き、歴史を感じていただければ幸いです。

是非とも、ご家族・ご友人の皆様もお誘い合わせの上、ご参加の程よろしくお願ひいたします。

(マスク着用を推奨)



記

1. 日 時 : 2025年 6月19日 (木) 10時00分 集合 (雨天決行)

2. 集合場所 : 大阪Metro堺筋線 動物園前駅 南改札口 (⑧出口)

<(京阪)寝屋川市駅→北浜駅、「乗換」(大阪Metro堺筋線)「天下茶屋行」北浜駅→動物園前駅 (約40分)>
(*) 南改札口-進行方向、前の方の改札 (⑧出口) の案内あり)

(出発後、暫くトイレが必要ないよう、駅構内のトイレで済ませて下さい)

3. 歩行コース

動物園前駅南改札 (集合/出発式) ⇒松乃木大明神 ⇒(通天閣) ⇒小西来山十萬堂跡碑 ⇒今宮戎神社 (集合写真) ⇒徳風学校跡 ⇒広田神社・赤土稻荷大明神 ⇒難波八阪神社⇒鷺町公園 (昼食) ⇒敷津松之宮・大国主神社 (集合写真) ⇒唯専寺・願泉字寺 ⇒有隣学校跡 ⇒西濱水平社発祥の地 ⇒浪速玉姫公園 (解散式) ⇒JR環状線芦原橋駅



4. 歩行距離 : 約 4.5 Km

5. 参加費用 : 300円 (当日集合場所にて徴収致します)

注意事項

- ①事前申し込み不要、当日直接集合場所へお越し下さい。
- ②昼食は、各自持参又は出発までに購入して下さい。
(昼食まで、コース途中には購入場所はありません)
- ③雨天決行。雨具等(傘・合羽・ポンチョ)を持参下さい。
- ④歩道が無い道路は、右側一列歩行を厳守して下さい。
- ⑤熱中症対策として、早めの水分補給を心掛けて下さい。
- ⑥当日の朝必ず検温して頂き、37.5度以上の方は参加を控えて下さい。
- ⑦参考資料は、当日に配布致します。



(解説サポーター)宮永克彦
吉田勝英

(担当)田中久己/井上隆至・中村由男

第176回 散歩 de 史跡

2025年6月19日(木) 10:00~14:00
参加者 26名 距離 約4.5km

動物園前駅から芦原橋駅へ時代を駆ける歴史散歩

動物園前駅南改札(集合/出発式)⇒松乃木大明神⇒(通天閣)⇒小西来山十萬堂跡碑⇒今宮戎神社(集合写真)⇒徳風学校跡⇒広田神社・赤土稻荷大明神⇒難波八坂神社⇒鴨町公園(昼食)⇒敷津松之宮・大国主神社(集合写真)⇒唯専寺・願泉寺字⇒有隣学校跡⇒西濱水平社発祥の地⇒浪速玉姫公園(解散式)⇒JR環状線芦原橋駅

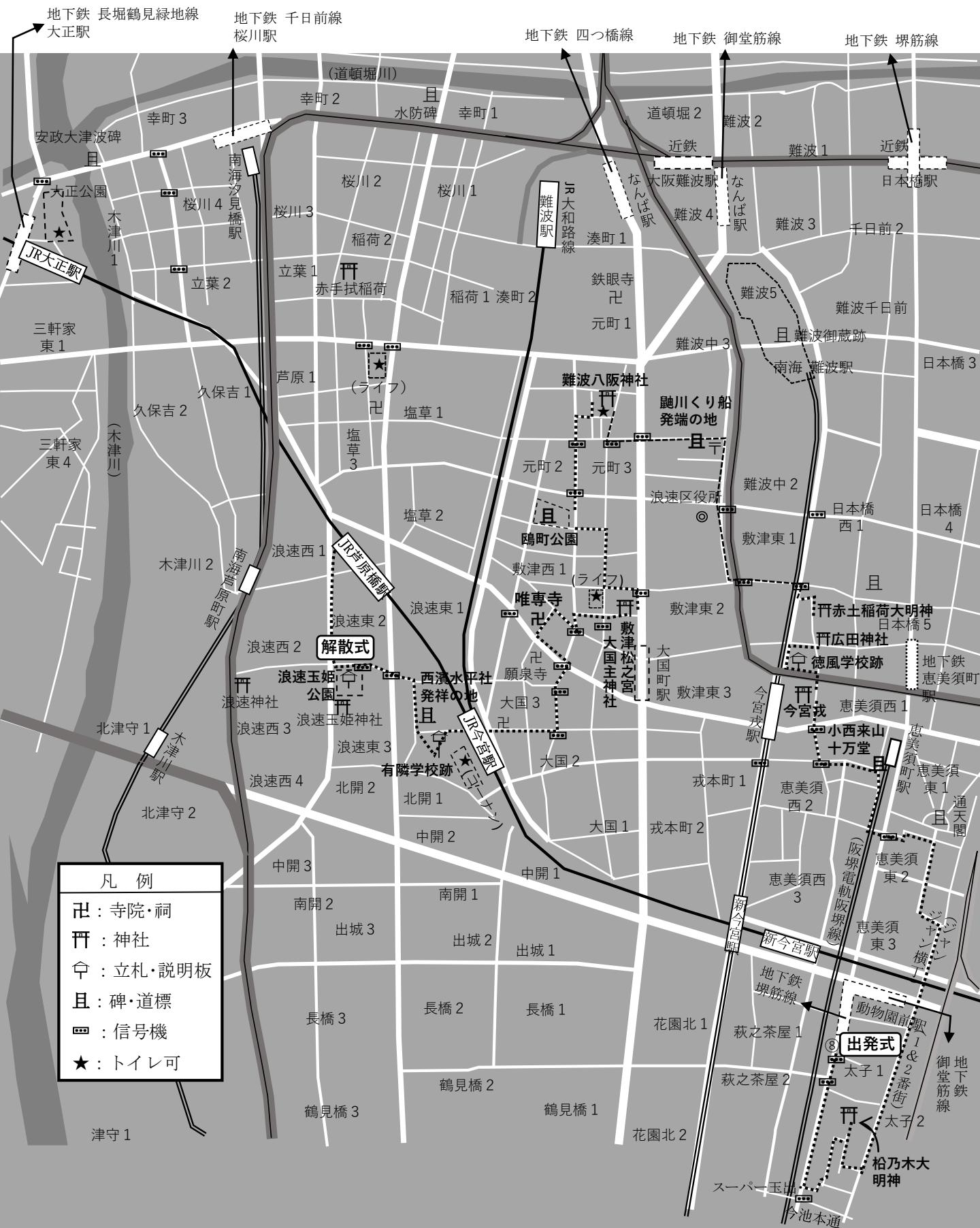


まだ6月の中旬というのに35度に迫る猛暑の中での散歩となりました。今回は大阪ミナミ周辺のディープ一角から外国の観光客の方が多いジャンジヤン横丁、大阪のシンボル「通天閣」と歴史を感じさせるメジャーな神社・仏閣を巡るなど不思議な散歩で全員が完歩できました。

パナソニック松愛会 寝屋川支部

『散步de史跡』

第176回 浪速区



〔参加者用〕

00. 出発式

- ・学校で、江戸時代は「士農工商」との階層区分を習った。しかし TV ドラマには「士」は威張って出てくるが「農工商」の区分はない、「町人」と言う。そして実体は、更にその下の身分が存在した。「穢多・非人」と称されるが社会の邪魔者だったのだろうか。ここは「飛田地区」と言われた非人地区の一角。本日は”教科書外”である。
- ・本日最初の神社はすぐそこだが、差し支えがある、私語を控えてもらいたい。

1. 梓乃木大明神

- ・薬師如来が祀られている変な？神社。創建は明治 34 年。大正 5 年飛田遊郭が築かれ賑わい始めた。戦前は大門通材モド オリ駅や南海電鉄の飛田本通駅があった。
- ・猫塚：三味線の胴の形をしている。付近にはたくさんの芸者や芸人があった。三味線は芸事に欠かせないもの。当時は猫の皮を剥いて作った。その猫達の供養のために遊芸関係者により建てられた。
- ・近松門左衛門碑 每年今池本通商店会が「近松猫塚芸能祭」を開催。

* 通天閣：大正元年建設、当寺東洋一の高さ。巨大ネオン広告は「ライオン歯磨」。この電気工事には’大阪電灯’の松下幸之助が勤務。二代目通天閣の広告は「日立製作所」、松下電器産業に広告掲出の打診があったが見送った。創業者はこれを後悔したという。

2. 小西来山十萬堂跡碑

- ・承応 3 年 1654 平野町(中央区)の薬種問屋に生まれた元禄時代の代表的な俳人。「今宮戎神社」境内に『舞アガオの 雨天にしほむ 是非もなし』の句碑。

3. 今宮戎神社

- ・主祭神：天照皇大神、事代主命、素盞鳴尊、月読尊、稚日女尊
- ・推古 8 年 600、聖德太子が四天王寺建立の時にその西方の守護神として建立。秀吉・徳川の時代も尊重された。
- ・昭和 38 年には初詣の賽銭に 1 万円札が登場し、高度経済成長の象徴として話題に。

4. 徳風学校跡

- ・明治以後、近代産業が起こる一方で都市に貧困層ができ、その子どもたちが教育を受けられず、この救済のために篤志家・慈善団体が徳風・有隣・愛染橋などの学校を設立。
- ・徳風学校は当時の南区浪速警察署長・天野時三郎の発意を受けて久保田鉄工の創業者久保田権四郎が学校経営費を拠出して開校された。

5. 廣田神社・赤土稻荷大明神

- ・**廣田神社**：創建年代は不明だが天照大神の荒魂を祀る。神功皇后が三韓征伐から戻ってくると忍熊王シクマノオカジが反乱していた。皇后は王を避けて難波に上陸しようとしたが船が海中でぐるぐる回って進めず、そこに廣田の地に天照大神の荒魂を祀るようとの神託が降り、船が動き出したという。神使のアカエが痔疾に靈験あらたか。
- ・**赤土稻荷大明神**：商売繁盛。米倉稻荷大神・楠稻荷大神・赤土稻荷大神の三柱。

6. 鮎川削船クリップ発掘の地

- ・この付近の難波新川と鮎川との連絡工事中に発見。楠材、6世紀頃のもの。
- ・削船とは丸木船のこと。発掘されたのは複材くり船であり、前後 2 本の継ぎ目部分は釘を使わず巧みな仕組みになっていた。
- ・鮎川がなかったら、四天王寺の建立はとても困難なものになったと考えられる。

7. 難波八阪神社

- ・創建年不詳。祇園牛頭天王を祀る古社として世間に知られていた。
- ・毎年 1 月の綱引神事は御祭神・素盞鳴尊が八岐大蛇ヤマタノオホを退治した故事に基づく。「摂津名所図絵」「摂津名所図会大成」にも紹介されている。
- ・仁徳天皇の時代、この付近一帯に疫病が流行り出したところ牛頭天王が現れたのでこれを祀った。それ以来「難波下宮」と呼ばれ、難波一帯の産土神となった。
- ・昭和 49 年完成の獅子殿は素盞鳴尊の荒魂を祀る大きな獅子の頭の形をした舞台があることで有名。

8. 鳴町モチヨウ公園

- ・乳幼児用のオムツブランコがあるのが最大の特徴。
- ・折口柳ヶ信夫生誕の地の碑。国文学者・歌人・民俗学者。柳田國男の影響を受けつつも独自の民俗学を国文学に取り入れ新境地を開いた。昭和 28 年没、願泉寺に埋葬。
- ・木津の勘助橋跡碑：四天王寺の建立のため鮎川に人を渡す重要な橋。

9. 敷津松之宮・大国主神社

- ・神功皇后が三韓征伐より帰朝し、住吉大社から敷津の浜を航行していると海岸に荒波が打ち寄せており、渚に松を 3 本植えて、ここより潮が満ちないよう祈願し、その松の下に素盞鳴尊を祀ったのが由緒とされている。
- ・大国主神社：延享元年 1744 に神託があり、出雲大社の神を勧請して建立された。
- ・神社名は宗教法人敷津松之宮。
- ・木津勘助の像：天正 14 年相模に生れ、豊臣秀吉に仕えて堤防工事や（次頁へ）

新田開発に尽くした。徳川時代に木津川の開削により大阪の発展に寄与した。

- ・寛永 16 年 1639 の冷害・大飢饉の時、大阪城の備蓄米放出を願い出ましたが聞き入れられず、私財を投げうって村人に分け与えた。それも限度があり ついに「お蔵破り」を決行、葦島(後に勘助島と呼ばれる)に流刑。75 歳で亡くなった。墓は唯専寺。

10. 唯専寺

- ・真宗大谷派。寺は用明天皇の時代が起りで、本願寺 vs 織田信長の石山合戦に功績。
- ・境内に寛永 14 年 1637 鋳造の梵鐘や木津勘助の墓がある。

* 願泉寺

- ・小野妹子の八男・法証カヨウの開基、慶長 2 年 1597 准如から一字を貰い、願泉寺に。
- ・相阿弥ソウミの作とされる枯山水の庭園は大阪市の重文(一時焼失)。折口信夫の墓。

11. 有隣学校跡

- ・徳風学校同様、浪速署長の天野時三郎の主導のもと新田帯革製造所(現ニッタ)の創業者新田長次郎により創設。学校は貧困家庭の救護の場。民間の社会事業の先駆け。

12. 西濱水平社発祥の地

- ・大正 11 年融和運動の「大日本平等会」が発会式もち、西光サイウ万吉は「全国に散在する特殊部落民よ団結せよ」と絶叫。全国水平社が誕生した。部落解放同盟の前身。
- ・もう一つ記念碑は水平社 60 周年記念事業「自主解放の『よき日』をめざし」。

13. 浪速玉姫公園

- ・「太鼓屋又兵衛」の屋敷があった場所。江戸時代を通して太鼓の全国ブランド。
 - ・大阪城の「時太鼓」(1616 年)、国の重文の鳥取城の「時太鼓」も作った。
 - ・この辺り渡辺村と呼ばれ、皮革産業、なかでも太鼓の生産地として栄えてきた。
 - ・この時計は定時(午後 5 時)になるとガラスが透明になり、回転する台の上で太鼓を打つ 2 体のからくり人形が現れ、太鼓の音を鳴り響かせる。
- * 玉姫大神：お稻荷さん。「女性守護、縁結び、芸道上達の神様」

14. 芦原橋駅・解散式

- ・芦原橋はこの地域の名。「穢多」と呼ばれる階層の人たちが多く住んでいて「渡辺村」と呼ばれる集落が形成されていました。

* 更に JR 環状線・地下鉄大正駅方向へ歩くと、赤手拭稻荷、安政大津波碑がある。

寝屋川便り

発行人: 中村由男 編集人: 柏植治人
会員数: 921名 (7月10日現在)
発行: 年3回 (1月・5月・8月)

支部ホームページもご覧ください

パナソニック松愛会 寝屋川

検索 Q

<https://www.shoai.ne.jp/neiyagawa/>

2025年度 支部大会

5月31日(土)に地元のニューコマンダー ホテルにて、来賓・



【中村支部長】 【山元副会長】 【久野議員】

支部会員あわせて総勢95名の参加を得て2025年度支部大会が開催されました。司会の開会宣言後に2024年度にご逝去されました29名の物故者の皆様への默とう、中村支部長の開会挨拶に引き続き、山元松愛会副会長の来賓ご挨拶をいただきました。また、2024年度に新しく入会され今回の支部大会に参加されました11班 斎藤英二さんの歓迎の紹介がされて、いよいよ議事がスタートです。

議事では中村支部長より第54回全国大会の報告、松本



【議案説明と会場の様子】

松愛会会長の支部大会開催祝辞メッセージの紹介の後、寝屋川支部の2024年度の活動経過報告・会計報告、そして2025年度の活動方針・予算案の説明が行われました。

2025年度の活動方針では、寝屋川支部結成50周年を記念し、公式LINEの試験導入・ホームページ版の支部の歩み作成などの記念事業や会員全員で祝うという趣旨のバスツアーをはじめとした各種の記念行事などのポイントと、役員体制は2024年度の役員全員が継続することが提案され、これらを含めて



【動画を見ながら「ちょこっと体操】でリラックスしました。

第2部では松愛会本部のホームページで紹介されている元橋先生の「1DAYかんたんトレーニング」動画を使った「ちょこっと体操」でリラックスしました。

第3部の昼食懇親会では久野さんが子寝屋川市議会議員からも祝辞をいただく中で、抽選会も開催されるなど、コンパクトな会場でもあり、いつも以上に「にぎにぎしく」にこやかな懇談・懇親の場となり、あつという間の2時間有意義に過ごすことができました。



【懇談・懇親の様子】

散歩de史跡

6月19日(木)に、「第176回 散歩de史跡」を実施しました。当日は、梅雨入りした6月とは思えない30度を超える暑さの晴天の中、1名の初参加の方も含めて26名の参加でした。

出発式では、冒頭、中村支部長の挨拶に続いて、サポートになられた6班の吉田勝英さんの紹介の後、今回も、解説役の宮永克彦さんより、当日の「散歩de史跡」のポイントを説明いただき、動物園前駅をスタートしました。



【通天閣をバックに】



最初に松乃木大明神を訪ね、大阪のディープな商店街を抜け、通天閣を目指しました。少し先に進み、隠れスポットで通天閣をバックに最初の集合写真を撮影しました。さらに進んで、小西来山十萬堂跡碑を通り過ぎて、

今宮戎神社でも集合写真を撮影しました。少し進むと、教育救済を目指した、徳風学校跡を横に見て、廣田神社、赤土稻荷大明神に着きました。外



【十日戎で有名な今宮戎神社にて】国人観光客に人気の難波八阪神社を越えて、鷺町公園で昼食をとりました。しっかり休憩をとって、次なる目的地、敷津松之宮・大国主神社を目指しました。ここでは、2つの本殿をバックに最後の集合写真を撮影しました。そこからは、唯専寺、願泉寺を経て、有隣学校跡を見て、西濱水平社発祥の地に到着しました。最終目的地、浪速玉



【敷津松之宮・大国主神社にて】

姫公園での解散式で、山本副支部長の挨拶をいただき、日頃触れることの少ない「大阪の様々な顔を感じられる神秘な散歩」を楽しむことができました。